

**富良野市総合計画・総合戦略有識者会議**

**幸福度調査・結果報告**

## **報告内容**

- 1. 前回の有識者会議から調査票作成まで**
- 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」**

# 1. 前回の有識者会議から調査票作成まで

令和3年7月13日 第1回有識者会議でのワーク

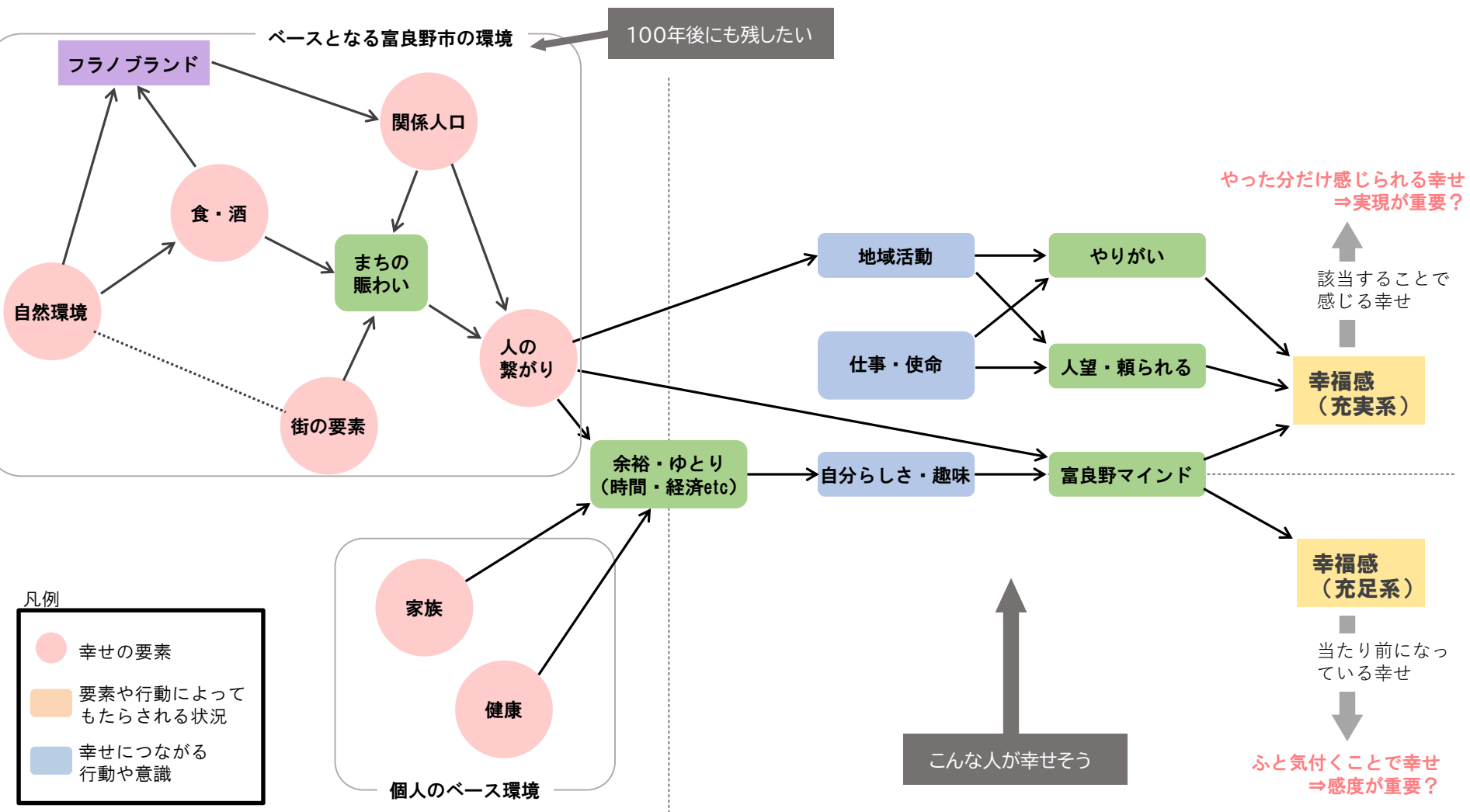
【目的】 富良野市の「幸福度」を考えるための  
仮説のタネ(視点)を考える





# 1. 前回の有識者会議から調査票作成まで

有識者会議の結果から想定された、ふらのの幸せの構造(仮説)



# 1. 前回の有識者会議から調査票作成まで

## 人によって幸せは、さまざま

富良野市幸福度調査アンケート



幸せはひとそれぞれですが、富良野市では、みなさんといっしょに、これから継続的に幸せのこと、幸せに寄与する施策のことを考えていきます（第6次富良野市総合計画）。

幸せは、当り前の暮らしのなかに隠れていたりする場合も多いものです。このアンケートでは、①ふらのの暮らしの中にある「幸せ」の情報を集めるとともに、②みなさんご自身が暮らしの中の「幸せ」を考え、発見していただく機会になることをめざしています。個人で考えるだけでなく、家族や仲間と話し合いながら記入いただくのも大歓迎です。

お答えいただいた内容は、ふらの全体の幸福度を測り、進化させていくための、貴重なデータとして役立てられます。また分析結果やみんなの幸せのタネをみんなで共有することで、より豊かな地域づくりに役立てます。できるだけ、格好つけたり、忖度したりせず、ご自分の率直な考えを書いていただくと、ありがたいです。

1月12日（水）までに、同封の返信用封筒に入れてご返送ください。

Webでも回答いただけます（内容は同じです）→

※Webで回答された場合は、この冊子の返信は不要です。



<https://forms.gle/Am4HfquWgQpRfHJr5>

<この調査に関する問い合わせ先>

富良野市 総務部 企画振興課 企画振興係（幸福度調査担当）  
電話 0167-39-2304 ファックス 0167-23-2121  
電子メール kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp

## 質問の構成

- ・あなたの基本属性
- ・地域しあわせ風土指標の質問
- ・主観的幸福度の質問
- ・あなたが幸せを感じる時・こと
- ・あなたの幸せに対して重要な要素
- ・幸せのタネを教えてください

## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

	一般向け	高校生向け
配布日／回答〆切	R3.12.24発送／R4.1.12〆切	R3.12.15配布／R4.1.12〆切
配布先	18歳以上の市民2,000名	富良野高(402人)、緑峰高(192人)
回収数(回収率)	郵送:434、ウェブ:127 →計561(回答率:28.1%)	ウェブ:328(回収率:55.2%)

郵送版

**人によって幸せは、さまざま**  
富良野市幸福度調査アンケート



幸せはひとそれぞれですが、富良野市では、みなさんといっしょに、これから継続的に幸せのこと、幸せに寄与する施策のことを考えていきます(第6次富良野市総合計画)。

幸せは、当り前の暮らしのなかに隠れていたりする場合も多いものです。このアンケートでは、①ふらのの暮らしの中の「幸せ」の情報を集めるとともに、②みなさんご自身が暮らしの中の「幸せ」を考え、発見していただく機会になることをめざしています。個人で考えるだけでなく、家族や仲間と話し合いながら記入いただくのも大歓迎です。

お答えいただいた内容は、ふらの全体の幸福度を測り、進化させていくための、貴重なデータとして役立てられます。また分析結果やみんなの幸せのタネをみんなで共有することで、より豊かな地域づくりに役立ちます。できるだけ、格好つけたり、付箋したりせず、ご自分の率直な考えを書いていただくと、ありがたいです。

1月12日(水)までに、同封の返信用封筒に入れてご返送ください。

Webでも回答いただけます(内容は同じです)→  
※Webで回答された場合は、この冊子の返信は不要です。



<https://forms.gle/Am4HqzWgQpRtHrU5>

<この調査に関する問い合わせ先>  
富良野市 総務部 企画係 企画係 幸福度調査担当  
電話 0167-39-2304 ファックス 0167-23-2121  
電子メール kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp

ウェブ版

新聞 回答 127 設定



**人によって幸せは、さまざま**

幸せはひとそれぞれですが、富良野市では、みなさんといっしょに、これから継続的に幸せのこと、幸せに寄与する施策のことを考えていきます(第6次富良野市総合計画)。

幸せは、当り前の暮らしのなかに隠れていたりする場合も多いものです。このアンケートでは、①ふらのの暮らしの中の「幸せ」の情報を集めるとともに、②みなさんご自身が暮らしの中の「幸せ」を考え、発見していただく機会になることをめざしています。個人で考えるだけでなく、家族や仲間と話し合いながら記入いただくのも大歓迎です。

お答えいただいた内容は、ふらの全体の幸福度を測り、進化させていくための、貴重なデータとして役立てられます。また分析結果やみんなの幸せのタネをみんなで共有することで、より豊かな地域づくりに役立ちます。できるだけ、格好つけたり、付箋(そんたく)したりせず、ご自分の率直な考えを書いてください。

<この調査に関する問い合わせ先>  
富良野市 総務部 企画係 企画係 幸福度調査担当  
電話 0167-39-2304 ファックス 0167-23-2121  
電子メール kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp

まずは、ご自身のことを教えてください。



ここからは、幸せに関するいくつかの指標についてお聞きします



Q1 あなたは、以下の内容についての程度当てはまりますか? A～E(非常によくあてはまる～まったく当てはまらない)の中から一つ選び、チェックを付けてください。

※「地域にわたる共通課題」の欄は、特定非営利活動法人イシュープラスサインの許可を受けて使用しています。

A 非常によくあてはまる。 B 少し当てはまる。 C どちらともいえない。 D あまり当てはまる。 E 全く当てはまる。

得意としている。  A  B  C  D  E

人を喜ばせること。  A  B  C  D  E

いざかかえてい。  A  B  C  D  E

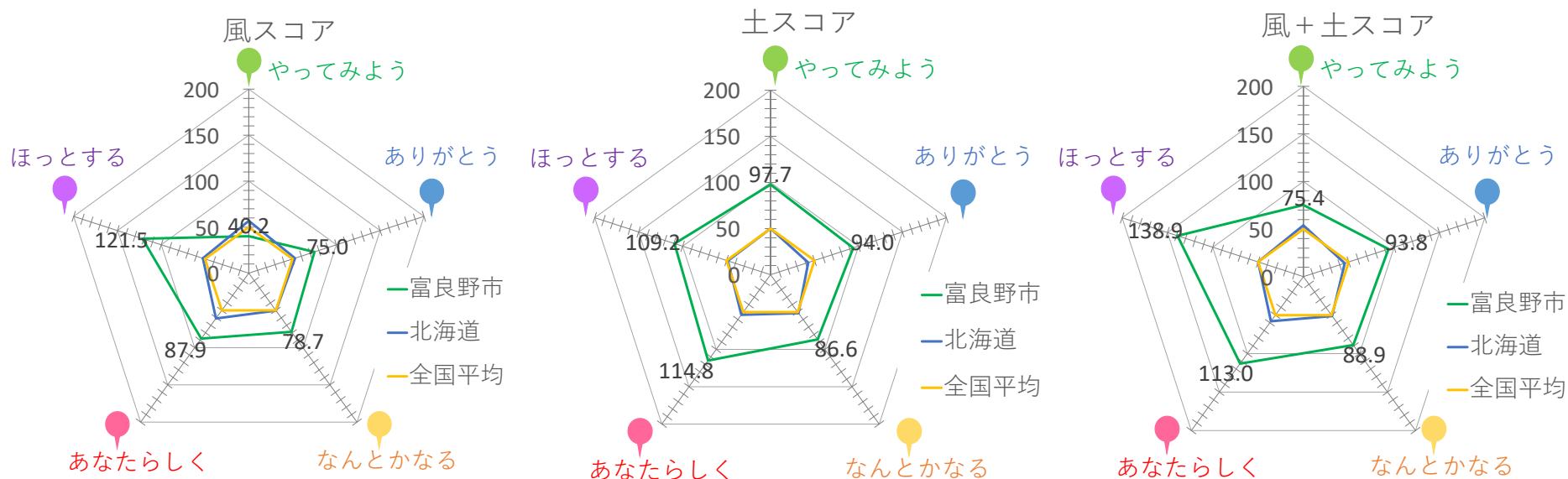
自分と他人を。  A  B  C  D  E

現在の暮らしや。  A  B  C  D  E

## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

### ■ふらのの幸福度(一般市民) ~地域しあわせ風土指標

- ・風スコアの「やってみよう」を除いて、いずれも全国平均、北海道平均を上回るスコアでした。(全国、北海道はissue+Designによる調査結果)
- ・風スコア(主に自分に関するスコア)は、「ほっとする」が突出して高い結果でした。
- ・土スコア(主に地域に関するスコア)は、全般的に高い結果でした。





## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

### ■より幸福を感じている人の特徴(一般市民)

- ・幸福度の高い人たち(5以上)は、幸せを感じる要因数が多い傾向
- ・「富良野圏域以外での居住経験あり」、「職業以外の地域活動をしている」、「いろいろなことから「幸せ」をみつけられる「幸せの感度の高い」人」に、幸福度が高い傾向が見られた

表1 統計的に有意な差が見られた内容

回答者の特徴	統計的に有意な差が見られた2つのグループ	
	幸福度が相対的に高め	幸福度が相対的に低め
年齢	40歳未満	70歳以上
世帯の種類	自分の親と同居していない世帯	自分の親と同居している世帯
性別	女性	男性
居住経歴	富良野圏外での居住経験あり	富良野圏外での居住経験なし
気軽に頼れる相手として	恋人をあげた人	恋人をあげなかった人
雇用形態	非正規雇用ではない	非正規雇用
地域活動	職業以外の地域活動をしている	職業以外の地域活動をしていない
要因ギャップ	要因ギャップ数 5未満	要因ギャップ数 5以上

幸せを感じる要因数の平均値

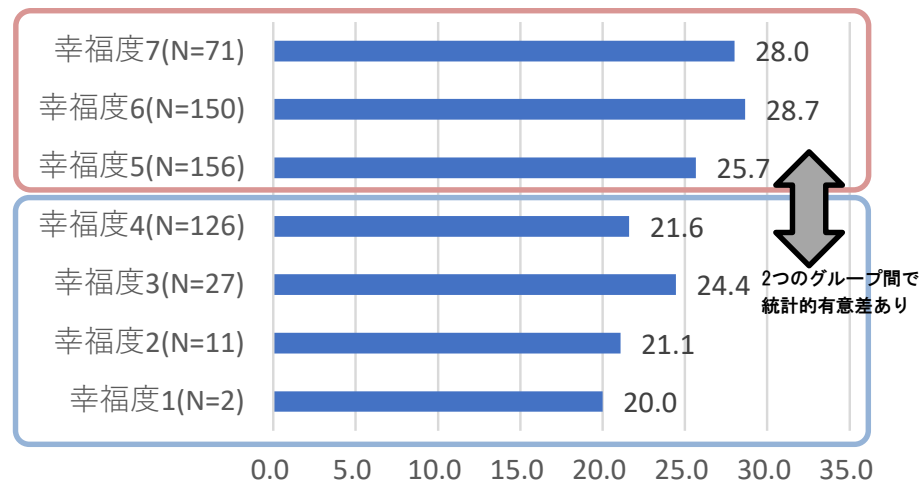


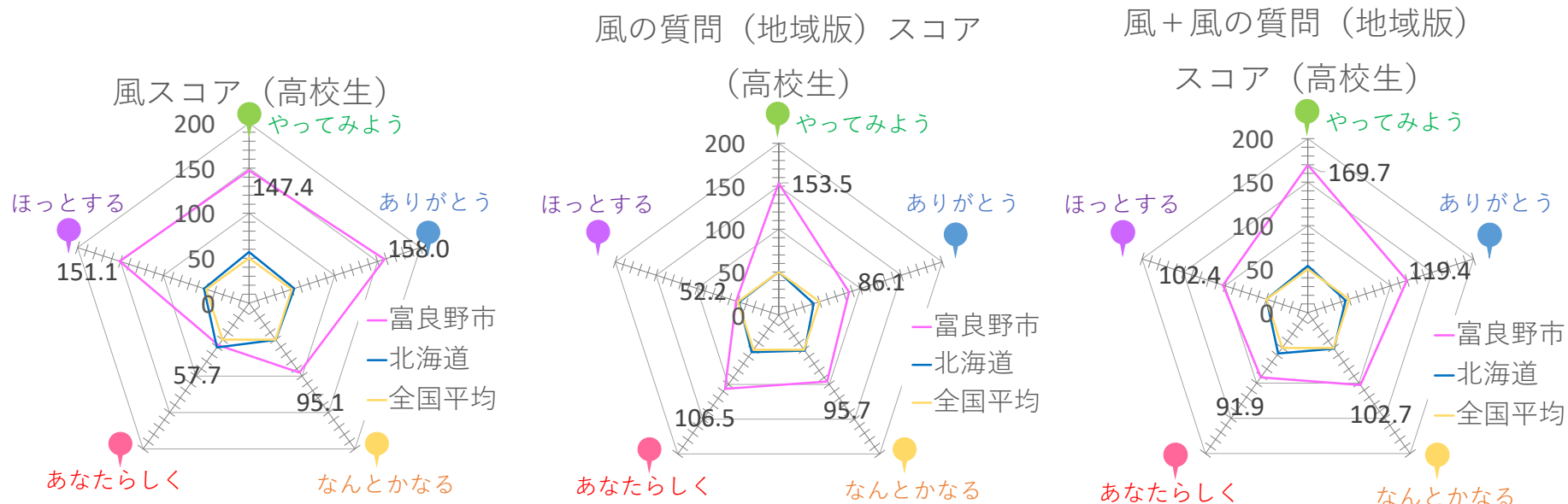
図1 主観的幸福度と幸せを感じる要因数の関係

※要因ギャップ：幸せを感じる「とき」「こと」の数と、それが自分に当てはまる数のギャップ

## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

### ■高校生の幸せ

・風スコアの「あなたらしく」を除いて、いずれの項目も全国平均(一般市民)、北海道平均(一般市民)より高いスコア。



※高校生には土の質問をできていないため、風の質問(地域版)を参考値として掲載

## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

### ■高校生の幸せ

- ・高校生では、統計的な傾向の違いがみられた項目は、一般市民と比べると限られた。
- ・幸福度の高い人たち(5以上)は、幸せを感じる要因数が多い傾向。
- ・いろいろなことから「幸せ」をみつけれられる「幸せの感度の高い」人に、幸福度が高いという傾向は、一般市民と共通。

表2 統計的に有意な差が見られた内容（高校生）

回答者の特徴	統計的に有意な差が見られた2つのグループ	
	幸福度が相対的に高め	幸福度が相対的に低め
学年	1年生・3年生	2年生
気軽に頼れる相手として	恋人をあげた人	恋人をあげなかった人
要因ギャップ	要因ギャップ数 5未満	要因ギャップ数 5以上

※要因ギャップ：幸せを感じる「とき」「こと」の数と、それが自分に当てはまる数のギャップ

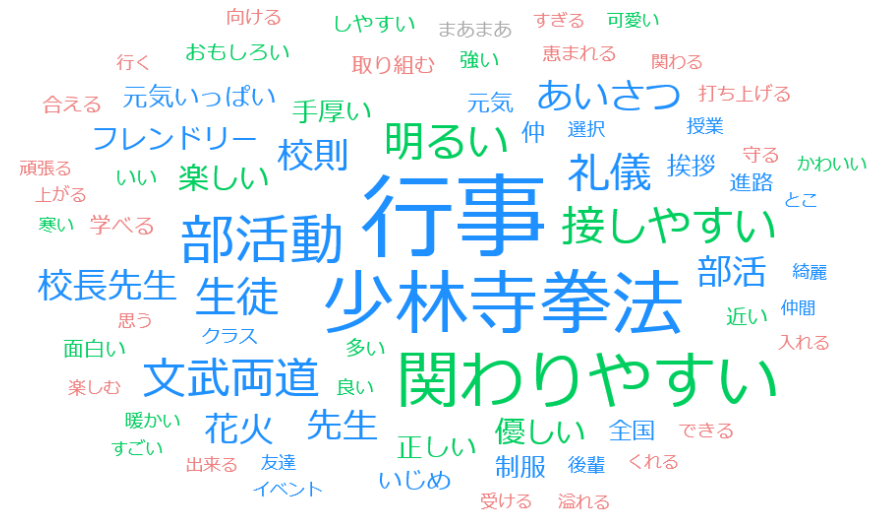


図2 「自分の高校の自慢できるところ」  
ワードクラウド

※ワードクラウドはユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を使用

## 2. 幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」

### ■幸せのタネ(一般市民および高校生)

- ・一般市民、高校生から、それぞれのべ551個、271個の「幸せのタネ」が寄せられた。
- ・こうした「幸せのタネ」を、効果的・継続的に市民と共有していくことが、市民の「幸せの感度」を高め、「幸福度」を高めることにつながると考えられる。



図3 「幸せのタネ」のワードクラウド 一般市民(左)と高校生(右)